

こんにちは。粃殻



田中瑞貴(代表者) 富永美恵 福井慎之介 渡邊一規
京都府立嵯峨野高等学校 ソーシャルビジネスラボ

目的

米の需要と生産量は減少し続けており、農業所得の平均は21、22年では一万円で、時給10円であった。これは深刻な問題であり、収入が少ないことが原因で稲作農家が減れば米や米に関係するものが失われるからだ。例えば水田は保水能力があるため、川の流れを調整・安定させ、土砂の流出を防ぎ、洪水を抑制する役割を果たす。またそのはたらきは海の生態系の保全にもつながっている。このように米は人間だけでなく、地球上の生物にとっても欠かせない存在である。だから稲作農家が抱える問題を解決しようと思った。そして私たちは粃殻に注目した。粃殻は一部が焼却処分されており環境によくない。粃殻自体はとても優秀な素材であるため、これを使った商品を作ることで新たな収入源を確保することができるのではないかと考えた。

内容

①しおり

しおりを粃殻を用いて作成する。ただ単に粃殻を固めるだけではなくドライフラワーを混ぜることでデザイン性にも富んだおしゃれなものを作る。粃殻を用いるメリットとしては従来の紙で作るしおりに比べ硬く折れにくいいため長期間使い続けることができる。また粃殻という素材の珍しさで近年電子書籍を使う人たちの興味をひき話題性を生む。

②ブックカバー

ブックカバーを粃殻を用いて作成する。原料に用いるのは紙袋であるが、デザインとして粃殻を使う。良い点としてはブックカバーの中に粃殻を使用する事で、環境に優しく若者に人気なデザインを作ることができる。欠点は粃殻を主に使用したプランでは無いということ。ただ、粃殻を使い花の形を作ったりスノードームのようにしたりする事でデザインの幅が増す。

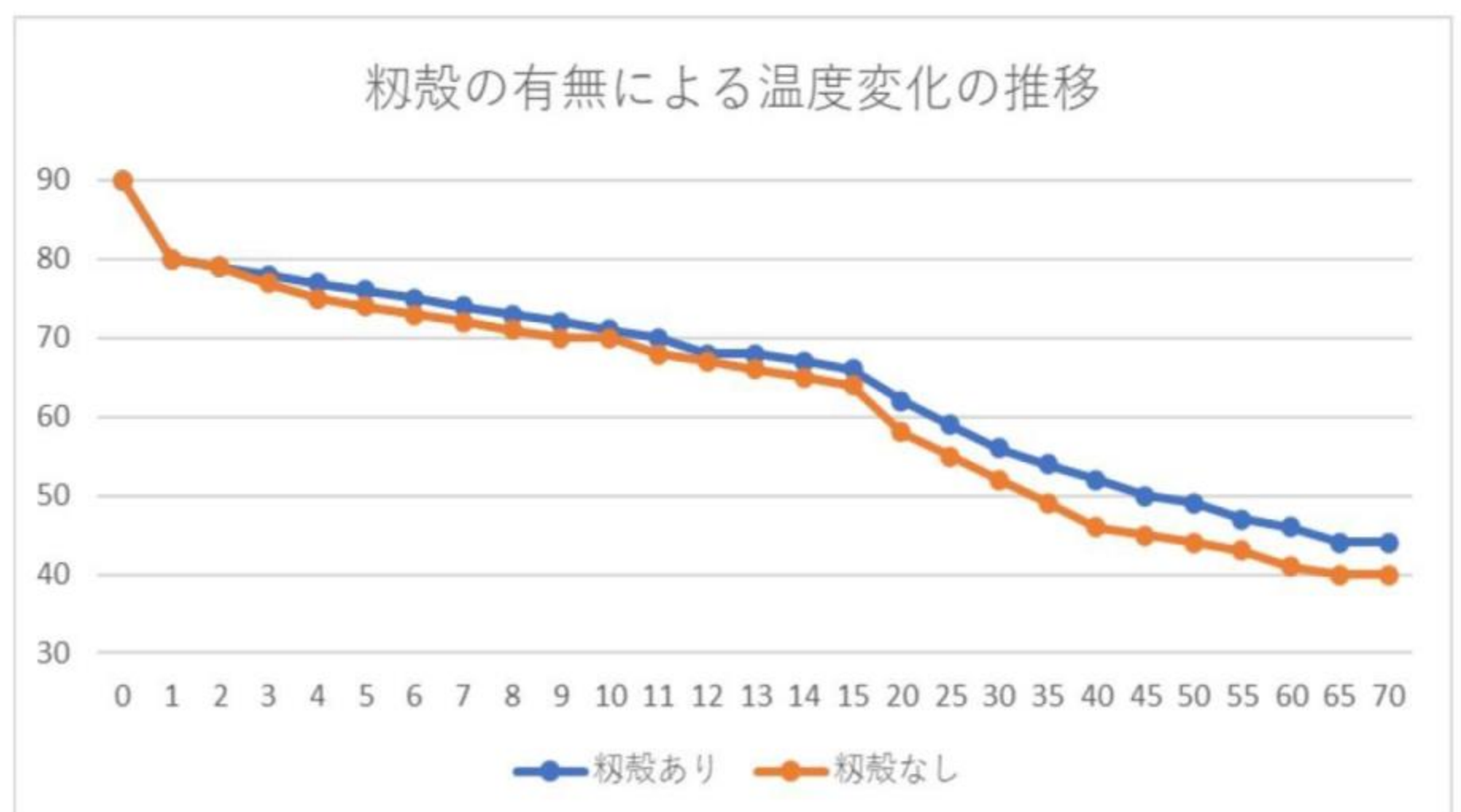
③粃殻のマグカップ

粃殻には保温性があるので、粃殻のデザイン性と保温性を活かしたマグカップといったものを作る。

結果

二つの大きさの違う容器の間に粃殻を敷き詰めたものとそうでないものを用意してお湯を入れ、温度の変化を記録した。

すると、粃殻がある方が温度が少し下がりにくかった。
(右グラフ参照)



結論・まとめ

稲作農家から材料となる粃殻を仕入れ、環境意識の高い人を顧客ターゲットとして販売する。販売方法としては、通販やお土産ショップでの販売を考えている。

広告としては、SNSでの情報発信・広告用のWebサイト開設を考えている。

これらを実現するためには従業員・作業場・粃殻・広告チラシ・商品専門Webサイト・商品作成のための道具が必要となる。